



～もう一人の自分たち～

校長 熊本 寿美

ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成

(文責：教頭 土器 修)

第25代生徒会活動の本格始動

理想の学校づくりに向かう意気込み ～生徒会役員研修の実施～

令和4年1月5日(水)、6日(木)に第25代生徒会役員研修会を本校で行いました。生徒会役員は、第25代生徒会スローガンの作成に向けて、南中の課題は何か、どういう学校にしたいのか、そのために何が必要なのかを分析しました。そして、理想とする学校像をそれぞれ発表することで、その実現に向けた決意を一層強固なものにすることができました。その他にも、生徒会役員としての心構えや原案作成の方法、生徒集会の運営等について学びました。



生徒会役員研修での校長先生からのお話の様子

「昇蘭」～第25代生徒会スローガンの発表～

1月11日(火)の生徒集会では、生徒会役員研修での活動が報告され、その成果である第25代生徒会スローガン「昇蘭(しょうか)」が生徒会会員に示されました。その設定理由を第25代生徒会長 伊藤寛菜さんが説明した内容を紹介します。



生徒会役員研修での決意表明の様子

第25代生徒会スローガン
しょうか
昇蘭

自分の意思を積極的に示し、互いに学び合う生徒(向学)
高い志をもち、南中八業の実現に自主的に取り組み、互いに磨き合う生徒(自立)
周りのことを考えた言動を意識し、互いに認め合う生徒(友愛)

今の南中の現状は、様々な生徒会活動を通してあいさつや掃除ができる生徒が多くなっています。第24代生徒会が目指してきた「優しさあふれる素敵な学校」を創るといふ思い、願いを受け継ぎ、さらに高みを目指して全校生徒が笑顔で過ごす学校にしたいという思いから「昇蘭(しょうか)」というスローガンに決定しました。「昇(しょう)」という漢字には「のぼる」や「上がる」という意味があります。これは全校生徒が学習、あいさつ、黙勤掃除、時間を守るということに関して、今よりもっと上を目指してほしいという思い、願いが込められており、

校訓に掲げている「向学」、「自立」の部分にこの言葉が係っています。「蘭(か)」という漢字は「蘭(らん)」とも読みます。蘭という花に共通する花言葉には「優雅」であり、これは一つ一つの小さい花それぞれがもつ気品、美しさが合わさることで全体として「優雅さ」につながるからきています。今以上に南中の生徒一人一人が中学生として美しく輝いてほしい、そして周りへの愛情や思いやりをもって全校生徒が一つとなって、素晴らしい学校を築いてほしいという、校訓の「友愛」にかかる意味と願いを込めています。



これまでの本校生徒会の伝統を大切にしながら、新たな学校文化を創造しようという生徒会役員の意気込みと、生徒会活動と自身の成長にかける本気度が十分伝わる生徒集会となりました。第25代生徒会役員たちのリーダーシップは、既に毎朝の昇降口での元気なあいさつ指導や常時活動での取組において発揮されています。現在、3月に控えた生徒総会の準備にも精力的に取り組んでいるところです。それぞれの公約実現に向け、創造的な提案がなされることを心から期待しています。

豊かな人間性を育む読書活動推進 ～宇美町読書ボランティア、ママーグースによる読み聞かせの実施～

1月24日(月)～26日(水)の朝読書の時間を使って、宇美町読書ボランティアのママーグースの皆さまに読み聞かせを行っていただきました。合計5名のボランティアの方にお越しいただき、お一人お一人、異なる読み聞かせの技術、語り口をご披露いただきました。誰もが知っている昔話も多く取り上げられましたが、ボランティアの皆さまが楽しさや怖さを引き立たせる工夫をされたことで、新鮮な感覚で生徒たちは話を聞くことができました。コロナ禍での実施のため、飛沫感染防止シートを間においた形での読み聞かせでしたが、生徒が本の世界に親しむ貴重な機会となりました。

今回が本年度最後のママーグースの皆さまによる読み聞かせとなりました。いつも感染防止対策に快くご理解、ご協力いただき、南中生の読書に親しむ習慣づくりにご尽力いただきましたママーグースの皆さまに心から感謝申し上げます。



読み聞かせの様子

地域に誇る南中の文化「あいさつ」の広がり ～小中連携あいさつ運動～

1月12日（水）に小中連携あいさつ運動を原田小学校にて実施しました。本校からあいさつボランティアの生徒合計45名が、歩道橋周辺や校門周辺に分散し、登校する原田小学校の児童や散歩中、通勤中の地域の皆さまとあいさつを交わしました。大変寒い朝でしたが、明るい笑顔であいさつするボランティアの生徒の姿に、原田小学校の児童だけでなく、地域の方も頬をほころばせながらあいさつを返していただきました。あいさつの輪が南中から地域に広がっていること、南中のあいさつが地域に誇る文化となっていることを実感した気持ちのよい朝となりました。

また、今回の小中連携あいさつ運動は、第25代生徒会にとって最初のボランティア活動でもありました。前日11日（火）の生徒集会での生徒会役員の熱い思いに多くの生徒が応えて参加してくれたことが何より嬉しいことでした。生徒会がリーダーとフォロワー一体となってさらに高みを目指し、「全校生徒が笑顔で過ごす学校」の実現に向けて邁進してくれることを確信しました。



歩道橋下での活動の様子



原田小学校前での活動の様子

生き方、共生について考える ～COCO音によるがん教育『生きることの授業』の実施～

1月17日（月）に、NPO法人COCO音から講師の方をお招きして3学年生徒対象のがん教育講演会を行いました。毎年、保健体育の授業の一環として、がんの正しい知識を学び、差別、偏見がない共生社会の実現に向けて自分たちに何ができるかを考える機会としています。

この日は、実際に看護師の方や患者の方から講話を聞くことで、3年生は自分や身近な人が同じような立場になったらどのように病と関わればよいのか、自分事として考えることができました。実際に患者の方からは、周囲の中間の存在が生きる支えとなり、夢や目標に向かって挑戦していることが語られ、生徒にとって自分の生き方について向き合う貴重な学びの時間となりました。生徒のふり返りの一部を紹介いたします。



COCO音の講師、疋田航様と深川直美様

- ・大切な人が同じ状況になったら自分が支えていきたい。何かあったとしても前向きに生きていきたいです。
- ・健康は当たり前ではないことを学んで、健康に対する意識が高まりました。支えられる人になれるように頑張ります。
- ・これからヘルプカードをつけている人がいたら、声をかけ、手助けしようと思いました。
- ・身近な人が難病になっても、いつも通り話しができる思いやりのある自分でいたい。
- ・つらいことがあっても、夢をもち続け、挑戦し続けようと思いました。前向きに生きて後悔しないようにしたい。
- ・病気になるったら夢を叶えることは不可能ですか？その程度の夢なのですか？自信をもって前に突き進みたいです。

「働くとは ～十三歳の君たちに送るメッセージ」 ～1学年「職業人に聞く会」の実施～

本校1学年では、「夢実現プログラム」として、生徒の望ましい職業観や勤労観の形成、自律した生徒の育成を目標に、実際に企業等から職業人を講師にお招きし、働く意義や将来、働くうえで大切にしたいことについて講話をしていただいています。本年度は「働くとは ～十三歳の君たちに送るメッセージ」という演題で、スポーツ、医療・看護、スーパーの業界からの4名の講師の方に将来働くうえで中学生に身に付けてほしい習慣や態度について話をいただきました。コロナ禍のため、感染症対策として、オンライン講話、会場の分散等を取り入れての実施となりました。4名のご講話では、本校でも指導の基盤としているあいさつ、時間を守ること、傾聴等の大切さ、南中八策に示された姿が将来の夢を実現するうえで必要であることが改めて語られ、1年生はなぜそれらが大切なのかを納得して理解することができました。生徒が印象に残ったことについての感想を一部紹介いたします。



株式会社マルキョウ 斉田敏也様



株式会社マルキョウ 河野晶則様



看護(本校町支援員) 北方優子様



アビスパ福岡株式会社 出雲大輝様

- ・「自分の身なりは自分のためだけではない。相手にどう見られるかが大切。」から、身だしなみの大切さがわかりました。
- ・「自分がやりたくて、できる仕事に就く。」から、色々な教科の授業を頑張り、できる幅を広げ、選択肢を多くもてるようにしたいです。
- ・「上達する人は傾聴する人。」から、学んだことを自分で解釈して自らのものにすることが大切だとわかりました。
- ・「患者さんとのコミュニケーションをとることが大切。」から、学校生活の話合いでも実践したい。わからないことはすぐに質問したり、調べたりしてなくすように心がけようと思いました。
- ・「人が嫌がることも率先してできること大切。」から、学校の委員会活動でも実行しようと思いました。

保護者の皆さまへ

ご承知のとおり、本県がまん延防止等重点措置を実施すべき区域に追加されたことを受け、本校では、以下のように対応することとなりました。ご理解の程よろしく願いいたします。感染者数の増加等により、新たな変更や延長等が必要な場合は、安心・安全メールにてお知らせいたします。

- 部活動：2月6日（日）まで全面中止
- 人権教室(デートDV)：2月3日（木）中止
- 百人一首大会：2月14日（月）国語科として実施
- 学校へ行こうDAY：2月15日（火）中止